地域の夢 ―― 小国地域

「新市地域らしさ価値」を高めるための小国地域の方針と活動

小国地域は、こんなところ

■小国町の成り立ち

小国町は新潟県の中南部に位置し、信濃川の支流である渋海川流域にあります。
東は関田山系の分水嶺を境に小千谷市と接し、西は八石山系の分水嶺を境に柏崎市に隣接。標高300ｍから500ｍの山脈に囲まれた盆地で、まさに「小国」の名にふさわしい地形といえるでしょう。

小国町の生い立ちは明らかではありませんが、渋海川の河岸段丘から縄文土器や石器が発見されたことから、縄文中期から後期にかけて小規模な集落が形成されていたと推察されます。小国の地名となる小国保を長承２（1113）年に源氏の一族である源頼行が領地としたことが文献に記されています。小国の開発はその頃から始まったと推察されます。

■和紙の里

300年以上の伝統を持ち、雪を活用した製造工程が無形文化財の記録選択に指定されている小国和紙。小国和紙は雪を巧みに活用した製法で作られ、使えば使うほど白くなるのが特徴で、ランプシェードなどの和紙製品のほか日本酒のラベル、版画用紙が生産されています。小国和紙生産組合が伝統技術を守っていますが、小国和紙づくりを学ぼうと、和紙づくりを目指す職人や学生などが研修にきています。町内には紙の博物館もあります。

小国地域の方針と活動（右頁参照）

小国地域において「新市地域らしさ価値」を高めていくための方向性と、活用したい地域資源（地域の強み）から検討した、将来実現すべき地域の姿（整備・活動方針）と実現のための活動・展開を提示します。

■ぎんなんの里

小国町では昭和61年頃から「ぎんなんの里」づくりに着手しています。昔から町内で生産されてきたぎんなんのうち３種類の大型種を町内に広め、団地化。現在は町内34haに4000～5000本のイチョウを植え、ぎんなんの生産を始め、「小国ぎんなん」の名で関東地方に出荷しています。

1 整備・活動方針と活動展開

ー新市全体のありたい姿ー WANT

小国地域において

独創企業が生まれ育つ都市
～誠実さが生み出す「技」立国・新ながおか～

を高める方向性

・独自技術へのこだわりが新たな価値を生み、新たな事業（商品）へと展開していくことを具現化することで、独創企業が生育可能な地域であることを内外にＰＲする。

ー活用したい地域資源ー CAN

資源の強み・内容

小国和紙
●300年以上の歴史を持ち、その製造工程が無形文化財の記録選択に指定されており、小国和紙生産組合が伝統技術を守っている
・希少性・高品質を活かした商品への展開
あたたかみのあるランプシェードなどの和紙製品の他、日本酒のラベルや書道、版画用紙などが生産されている
・伝統技術を学ぶために学生や職人希望者が研修に来ており、独自技術の発信が行われている
●雪を巧みに利用した製法で、使えば使うほど白くなる

小国ログ
●ログハウスを中心とした、ベンチなどのログ製品の設計、製造、販売で好評を得ている
・曲線を用いたカッティング方法と気密性の高い加工技術によるやわらかみのある製品
・優れた加工技術による間伐材の有効活用

ー実現すべき小国の姿ー WILL

■小国地域整備・活動方針

伝統技術の継承と独自技術を活かしたこだわりの里づくり

・小国和紙等の伝統技術や独自技術の継承および発信により、後世に残るものを生み出す技術へのこだわりに誇りを持ち、高付加価値化を実現する。

実現していくための活動・展開

見極める
●大学・研究機関との連携による、小国和紙の研究と新たな製品化への取り組み
●小国和紙・ログの新たな販路開拓

発信する
●小国和紙・ログなど、地球にやさしい技術のシンポジウムやサミットの開催
●伝統技術を活用した、ものづくりに関わる一連の体験・教育プログラムづくり

育てる
●伝統技術を継承するための人材受け入れ体制の強化
●環境優先型社会を伝える、指導者の養成

2 整備・活動方針と活動展開

ー新市全体のありたい姿ー WANT

小国地域において

元気に満ちた米産地
～まごころ米の生まれる里・新ながおか～

を高める方向性

・グリーンツーリズムなどの活動を利用しながら農業体験だけでなく、「現地で体感するおいしくて特徴ある食」を提供することにより地域の魅力向上および活性化へ寄与する

ー活用したい地域資源ー CAN

資源の強み・内容

八石米
● 恵まれた自然に育まれた良食味米
・ 小国でのコシヒカリ専用の有機質肥料を使った土づくりによるおいしい米づくり

八石なす
● 皮のやわらかい特徴を持つ丸ナス
・歯ざわり感が良く、郷愁を誘う味と評判で、安全安心でおいしい漬け物
・町内で生産一加工一販売

小国ぎんなん
●昔から町内で生産されてきた３種類の大型種を町内に広め団地化
・独自ブランド製品の製造販売の他、表皮の肥料としての利用や、防虫効果の活用など新たな展開を模索中

グリーンリース
●県事業で整備した以外にも独自に実施している集落もある
・ 生産者の顔が見える安心の食の提供や、農業体験による“新たな発見”の提供

ー実現すべき小国の姿ー WILL

■小国地域整備・活動方針

安全で味にこだわる食の里づくり

・ おいしくて特徴のある食の生産・発信地としての発展

実現していくための活動・展開

見極める
●土づくりからはじめる安心安全なこだわり食材（米・なす・ぎんなんなど）の生産と製品開発の促進
●体験型農業の推進による農村生活理解活動の推進

発信する
●安全な食材のつくり方から食べ方までを発信する“トータル食学校”の創設
●こだわりの食を体験できる「小国御膳」の開発と、もてなし体制づくり

育てる
●安全な食を販売する人材の育成
●ぎんなん生産量日本一への取り組み

3 整備・活動方針と活動展開

ー新市全体のありたい姿ー WANT

小国地域において

世代がつながる安住都市
～未来人を育む資源博物館・新ながおか～

を高める方向性

・集落単位の顔の見えるコミュニティでの地域づくりを通じて世代間交流を活性化し、日常生活の中で自らが考え行動する未来人を育むために貢献することを示す
・子どもから老人まで、健常者から障害者まで、ともに役割を持ち、元気で支えあう地域づくり

ー活用したい地域資源ー CAN

資源の強み・内容

地域づくりコミュニティ
●集落活動計画と一集落一事業
・各世代（子ども～お年寄り）が集落の良い点悪い点を話し合って計画づくりを行う（行政もサポート）
・住民自らが生活環境づくりを行う
・集落が１つの活動単位となっている

福祉コミュニティ
●多様なボランティア活動
・地域の中で、支える人支えられる人が、ともに生きがいを持てる活動
生き生きサロン（19地区）
福祉ボランティア登録者（実数350人延べ530人）
学校支援ボランティア（39人）
生涯学習活動人材バンク（40人）
●食生活改善推進委員
・食を通した健康づくり
・食の伝統文化を次世代に教え伝える活動
●予防医療の推進
・健康に対する意識改革により検診受診率の向上やウォーキングなどの運動が活発化
●しぶみ工房
・３障害者（身体、知的、精神）がともに働ける通所授産施設

ー実現すべき小国の姿ー WILL

■小国地域整備・活動方針

**元気で支えあう気持ちを育み
全ての人にやさしい里づくり**

・日常的な支えあいや世代間交流を通じて、生活の中で自らが考え行動する未来人を育む

実現していくための活動・展開

見極める
●集落活動の連携による防犯体制の一層の充実
●21世紀の新しい食をテーマとした健康づくりの実践

発信する
●“健康イベント”開催による、地域の魅力をアピール
●農村の良さを伝える広報・情報発信の強化

育てる
●高齢者の経験・知識を地域コミュニティで発掘・継承する健康な里づくり
●地域ボランティアの組織づくりと活動支援によるリーダー(予防医療等生活専門員)の養成

4 整備・活動方針と活動展開

ー新市全体のありたい姿ー WANT

小国地域において

世界をつなぐ和らぎ交流都市
～「人」「ものがたり」「競和国」・新ながおか～

を高める方向性

・へんなかツーリズム事業は、各所の魅力を連携させて魅力の向上と創造を図る体験型交流への取り組みを実践するものであり、新市で取り組む地域内連携のモデルとして期待される

ー活用したい地域資源ー CAN

資源の強み・内容

都市との交流
●武蔵野市と友好市町村共同のアンテナショップ
・友好都市の武蔵野市とは通年で交流
・武蔵野市民の愛蔵書を預かる小国町愛蔵書センターの取り組み
●新潟大学の支援
・地域をあげての取り組み、学生との交流も行われている

町をあげてもてなす、へんなかツーリズム事業
●歴史ロマンの隠れ里まつり
・町民ボランティア500名、歴史愛好家などが全国から集まる
●四季を通したまつり
・雪上エンデューロ大会、巫女爺踊り
●緑豊な自然
●多様な交流施設
・越後おぐに森林公園、自然の家やまびこ、小国芸術村等恵まれた自然の中で長期滞在が可能な体験施設がある
●なじょらい市
●農村生活アドバイザー 等
・地産地消をめざす元気なお母さん達が育ちつつある
●グリーンツーリズム推進協議会
・有志の研究会による民泊試行が開始
・へんなかツーリズム事業のもと、町中の取り組みの窓口を一本化し、連携させる試みが始まっている

ー実現すべき小国の姿ー WILL

■小国地域整備・活動方針

**へんなかツーリズムによる
もてなしの里づくり**

・地域でもてなす体験型交流の創造と展開の実現

実現していくための活動・展開

見極める
●純農村型文化の発掘と継承
●長期滞在型交流環境づくり

発信する
●農村交流モニターの全国募集と情報発信
●大学との研究交流による農村文化学習フィールドとしての地域イメージづくり

育てる
●地域における“もてなし”の意識確立と体制づくり
●本を活用した新たな都市と農村の文化交流推進

もっと詳しく地域の力――小国地域

小国町は、自然豊かな田園風景や独自の伝統文化など地域の資源を活かしたグリーンツーリズム事業の推進の一環として「へんなかツーリズム」によるもてなしの里づくりを目指しています。「へんなか」とは囲炉裏を意味する小国の方言で、ツーリストがふるさとで過ごすように地域滞在を楽しめる環境を整え、地域でもてなす体験交流の創造と展開の実現に努力しています。

■小国グリーンランド

豊かな自然に恵まれた小国町はおいしいものの宝庫です。まず、忘れてはいけないのがコシヒカリ。八石山麓に広がる肥沃な大地で育てられた「八石米」は、小国ブランドとして知られています。さわやかな風味の「八石なす」も夏の特産品として人気。またゼンマイ、ワラビ、ウドなどの山菜も豊富。シイタケも栽培しています。「小国ぎんなん」は味、品質ともに東京などの市場で高い評価を受けています。

■歴史ロマンの隠れ里まつり「もちひとまつり」

へんなかツーリズム活性化のひとつがイベントメニュー。それも地域の歴史にこだわったまつり。小国は古来、その盆地の地形と30もの中世山城から「隠れ里」の風情とともに、歴史ロマン伝説の宝庫。その伝説のひとつが「以仁王逃亡伝説」。

学ぶための「歴史ロマンシンポジウム」と、住民総参加をめざし素人集団による手作りの「歴史野外劇」上演。山城のろし・かがり火・夜ののろし・山車とこの期間は住民・ツーリストが一体に溶け合い、小国の里は平安絵巻一色に染まります。

■小国和紙と紙の美術博物館
300年以上の伝統を持ち、雪を活用した製造工程が無形文化財の記録選択に指定されている小国和紙。雪を巧みに活用した製法で作られ、使えば使うほど白くなるのが特徴。ランプシェードなどの和紙製品のほか、日本酒のラベル、版画用紙などが生産されている。紙の美術博物館には、小国手漉き和紙を使った様々なオブジェが展示されている。

■グリーンリース事業
農業・農村への理解の増進を求め、遊休農地の活用を目的に都会の人たちに農地を貸し出す事業。ふれあい広がる棚田。グリーンリースほ場ではオーナーを募集中。

■良食美米の八石米
八石米は盆地と渋海川から生まれた良食美米。八石山麓に広がる肥沃な台地が育んだ「八石米」は、小国ブランドとして有名。

■小国町愛蔵書センター
小国町と友好関係にある武蔵野市から寄贈された本を収蔵。住民に閲覧、貸し出し、読み聞かせなどを行い、本を通して都市と農村の文化交流を図っている。

■歴史ロマンの隠れ里まつり「もちひとまつり」
小国町の歴史ロマン伝説「以仁王逃亡伝説」を題材とした住民とツーリストが参加する手づくりイベント。「へんなかツーリズム」のひとつとして、住民総参加を目指している。